

と同時に咲く花、“黄色のだ円形の雄花”“薄紅色の卵形の雌花”に淋しさを感じる心、そして、その時が種薯を播く適期という北国の農民の慣習に触れ、詩の二行目「落葉松咲い

たで急いで播くにやもう遅いわ」と詠れていることで、原野の中で育った氏の細やかな観察、実感がよく表現されている。

忘れ得ぬぬくもり

つまごい
元農林水産省婦恋馬鈴しょ
原原種農場長

秋 元 喜 弘

「腰を下して休んでよし、別れ」。農家を囲んでいる木立の根元に向け私は一気に走り、くずれるように腰を下した。うっすらと雲のかかった夜空のところどころから星のかがやきが見える。まだ10月というのに下志津原の夜は冷えこみ、私は両腕でひざを抱きかかえるようにして寒さに耐えていた。

昭和18年（1943）秋、関東地区中等学校連合演習第1日目の夜のことである。両軍が広い千葉県下志津原をそれぞれ南下北上し、2日目の早朝遭遇することとなっていた。私は北軍に属し、ある電車の駅で下車後、夜おそくまでわずかの休憩のはかは、行軍したりかけ足をしたりで疲労はその極に達し、しかも昼間小川や、かなり深い水たまりなどを渡ったためふくらはぎから下はすぶ濡れとなり、湿った衣服や靴をとおして感ずる冷たさはそれこそ絶望的であった。それに、腰を下すと強い空腹感が襲ってきた。しばらく前に乾パンと水筒の水で夕食をとったが、疲れた身体には僅かに塩味のするコチコチのパンなど受けつけるものではなく、定量のほとんど1/4くらいしか食べられなかった。いま空腹でも

残りを食べる元気もないし、また許されもしない。次第に強さを増す冷気のなか、果たしてこれで明朝の遭遇戦まで一睡もせず身体が持ちこたえるであろうか、いささか心もとなくなってきた。

何となくあたりが薄明るくなった感じがしたので、私はそろそろと頭を上げた。

「学生さん、お腹が空いたでしょう。さつまいもですがどうぞおあがりなさい」。農家の土間の戸が開いて、主人と奥さんが大きなざるを持って現われたのである。

「折角のご好意だ、有難く頂戴しよう。よく味わって食べるように」。かたわらから引率の教練教師も声をかけてくれた。

ふかしたばかりなのであろう、湯気の立つあまり太くない3本のさつまいものぬくみは、私のてのひらから全身にめぐっていった。空腹にもかかわらず、しばしそのぬくもりを楽しんでいたが、やがてその1本を口にし無我夢中で食べた。あまりにあっけなく食べてしまったので、2本目はよく味わいつつゆっくりと食べることにした。暗い夜でどのような味もかよくわからないが、皮の色は濃く細目で、中味はボクボクではなく、ややねっとり

バレイショ増収一〇〇〇問答

■三百回余りの講演で、いも作従事者からいたいた千四百余の質問を整理し、これに回答。基本から植付け、収穫・防除までを解説し、厳しさが加わる現代農家に大きな指針を示す好著。元北大助教授・吉田稔著 定価七〇〇円 送料二五〇円

清薯源流の砦

■現在の種苗管理センターのいも作関係は、昭和二二年に創設された「馬鈴しよ原種農場」がその出発である。各農場の歴史と現況の報告書。いも類振興会編・定価七〇〇円 送料二五〇円

21世紀に向けてのいも作り

■生涯を北海道のバレイショ作に投入した著者快心の著作。その視野は需要者の品質志向から国際競争力まで、いも作従事者の今後の指針を示す。吉田稔著 定価六〇〇円 送料二五〇円

アンデスから食卓まで

■ジャガイモのふるさとアンデスから出発し、その料理法や品種の特性、栽培から食卓への供給までを、オールカラーで紹介。田中智著 全改訂 定価五八〇円 送料一七五円

熱帯アジアの馬鈴薯生産

■東南アジアの馬鈴しよ生産の実態を、各国のレポートから翻訳した貴重な資料。わが国馬鈴しよ作に大きな示唆を与える。秋元喜弘著 定価八〇〇円 送料二五〇円

甘しよ・ばれいしよ・おいも全書

■斯界の権威による今日のおいも百科。香川綾 監修 定価三五〇〇円 送料四五〇円

とした感じであった。そして何よりも甘い。その甘さが疲れ切った身体を急速にいやしてくれた。世の中に、こんなおいしいものがあったのであろうか。

あたたかいさつまいもを食べて元気の出た級友たちの楽しそうな話し声や笑いがきこえはじめたが、私は残った1本を新聞紙に包んで背負袋に納めた。

まんじりともしない間に夜は更け、やがて東の空にはんわり明るみがさしたところ整列。睡魔に襲われながらしばし行軍ののち散開し、夜明けとともに白刃をふりかざしての突撃をもって状況終り、となった。

ホッと安堵し腰を下しての朝食は昨日来の乾パンと水であったが、私は新聞紙に包んださつまいもをとり出してみた。いもはすっかり冷えていたが、明るいところで見たそれは美しい濃い赤紫色で、ちょうど蜜がにじみ出たように湿っており、中は白く、しっとり

してまるでようかんのように甘く、文字どおり無味乾燥な朝食にうるおいを添えてくれた。

あのさつまいもは農家の好意によるものであろうか、それとも学校側の意向で事前に手配されていたものであろうか。ともあれ、50年を経た今も折にふれてあのとときの私をよみがえらせてくれた、あたたかいさつまいもと、それを手渡してくれた心温かい農家の方々の笑顔をなつかしく思い出す。

いも類振興情報 第37号

平成5年10月15日発行

発行所	財団法人 いも類振興会
	東京都港区赤坂6-10-41
	ヴィップ赤坂303号室
	電話 03-3588-1040
	振替・東京3-110152
印刷所	交通印刷株式会社